

令和 2 年 5 月 20 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02403

研究課題名（和文）東アジアの連関と比較からみた中国戦時秩序の生成と言説の様態

研究課題名（英文）The Formation of the Wartime Social Order and the Situation of Discourse in China from Comparative Viewpoint with East Asia

研究代表者

笹川 裕史（SASAGAWA, Yuji）

上智大学・文学部・教授

研究者番号：10196149

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日中戦争（1937～45年）、国共内戦（1946～49年）、朝鮮戦争（1950～53年）とそれに続く東アジアの国際緊張を経験したことによって、中国にもたらされた戦時秩序の生成を考察し、そこに立ち現れる多種多様な人々の言説を詳細に分析することを通して、この戦時秩序が複雑で多元的な性格をもっていること、およびその性格が現在の中国社会にも引き継がれていることを明らかにした。そのうえで、日本・台湾など、東アジアのその他の諸地域における戦時秩序と比較することによって、この研究は中国近現代史に新たな比較研究の視座を提供した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、20世紀の総力戦がもたらす戦時秩序の生成という共通の歴史現象を分析の基軸に据えることによって、東アジア諸地域相互の連関や比較にもとづいた中国社会の特質を提示することができた。また、本研究が扱う中華人民共和国成立前後の歴史像は、これまでは権力側の公式の政治理念あるいは政治指導者たちの言説によって描かれることが多かった。それに対して、本研究は、権力の末端に位置する行政職員や基層幹部、一般兵士、民間の商工業者など戦時秩序の生成に翻弄される名もない人々の言説に光をあてた。これによって、戦時秩序とその生成過程には、それぞれの現場で危機や困難に向き合っている大勢の人々の営みを明らかにできた。

研究成果の概要（英文）： This study considers the formation of the wartime social order that was brought in China by the experience of the Japanese-Chinese War, the Chinese Civil War, the Korean War and the international tensions that followed it. It also makes clear that the wartime social order had complex characteristics and continued to exist into the contemporary Chinese society. In addition, by comparing the wartime social order in other areas of East Asia, such as Japan and Taiwan, this study provides a new comparative perspective on modern Chinese history.

研究分野：中国近現代史

キーワード：東アジア史 比較 戦時秩序

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の発想の背景として、山之内靖らの理論研究を代表とする総力戦体制論がある。日本史の分野では、その立論を批判的に援用した個別実証研究が進展し、豊かな成果を生み出してきた。ところが、中国史においては、本研究の組織的母体である中国基層社会史研究会とその構成メンバーが、日本史との比較研究の新たな地平を切り拓きつつ、こうした研究動向を担ってきたとはいえ、その研究蓄積はなお十分であるとはいえない。本研究は、このような研究をより組織的に推し進め、内容的にも深化させるために始まった。

(2) 近年の中国近現代史研究は、利用可能な史料の豊富化に促されて、数多くの史実を新たに発掘しつつある。とはいえ、それらが新たな歴史像の構築に向かわず、むしろ全体を不鮮明でとらえにくいものにしてきた。その結果、当該分野の対外的発信力がむしろ低下傾向にあることは否めない。本研究は、総力戦がもたらす戦時秩序の生成という共通の歴史現象を基軸に据えることによって、東アジア地域の国際的な連関と比較を意味あるものにする可能性を開くことになろう。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、長期にわたる総力戦を経験することによって生み出された中国の戦時秩序について、その外形や表層のみを平板に追跡するものではない。戦時秩序とその生成過程の内側に、思いもよらない多種多様な「声」が封印されたまま巣喰っていることに注目した。つまり、戦時秩序の実態の追究とともに、そこに立ち現れる各種の言説を分析対象にすることを通じて、一義的にはとらえきれない戦時秩序の多面的な意味を批判的かつ多面的に考察することが目的である。

(2) 本研究が対象とする中華人民共和国成立前後の歴史像は、今日においてもなお、権力側の公式の政治理念やイデオロギー、あるいは有力な政治指導者たちの言説によって描かれることが多い。本研究の場合、権力の末端に位置する行政職員や基層幹部、一般兵士、民間の商工業者、宗教指導者、知識人、下層民衆など、戦時秩序の生成に翻弄される多種多様な名もない人々の生々しい言説を発掘し、光をあてる。これによって、それぞれの現場で危機や困難に向き合っていた大勢の人々の営みを浮かび上がらせる。

(3) さらに、上記の分析結果を、日本、台湾など、同じく総力戦に巻き込まれた他の東アジア諸地域との連関や比較の視点からとらえることによって、一国的な視野狭窄から抜けだし、その中国的特質をより鮮明にすることを目指した。

3. 研究の方法

(1) 本研究の基本的な方法は、研究代表者・研究分担者それぞれが全体の研究目的および各自の役割分担にもとづいて年1回中国(大陸)・台湾・香港・オーストラリア・アメリカ合衆国など海外での史料調査・収集を行い、日常の研究例会でその成果を適宜報告しあい、研究情報や問題点を共有することである。本研究の場合、中国の戦時秩序の実態とそこに立ち現れる多種多様な言説の内容を明らかにできる膨大な量の史料を根気よく発掘・収集・解読することがきわめて重要だからである。

たとえば、香港中文大学に所蔵されている新華社『内部参考』という1950~60年代の貴重な定期刊行物は、科研メンバーが分担して収集に努め、全部ではないにしても、主な関連部分を科研メンバーで共有することができた。

(2) 上記の研究例会では、科研メンバーだけではなく、それ以外で本研究に有益な知見を提供できる研究者をゲストスピーカーとして招聘し、相互の意見交換をおこなうことも重視する。たとえば、日本の戦時戦後の社会変容を論じている研究者や第二次世界大戦期にナチス・ドイツの占領下に置かれたフランス社会を分析した研究者などから有益な議論を提供していただいた。いずれも、本研究が掲げる国際的な連関や比較の視点を培うことができた。

(3) そうした作業を積み重ねたうえで、最終年度には国際シンポジウムを開催し、関連の深い隣接分野の研究者や中国人研究者を招き、本研究の成果を内外に発信するとともに、内実をともなした学術交流の実現をめざした。

4. 研究成果

(1) 本研究のまとまった成果としては、科研最終年度である2019年の10月6日に上智大学を会場として、「戦争、兵士、社会変容 中国と日本」を全体テーマに掲げた国際シンポジウムを企画・開催したことである。本研究の構成メンバーの他に、パネラーとして、日本史研究者の中村江里(慶応大学)、一ノ瀬俊也(埼玉大学)、中国人研究者の阮清華(華東師範大学)、隋藝(深圳大学)を招聘し、研究分野や国籍をこえた学術交流の場が実現した。シンポジウムは、「兵士からみた戦争」、「変容する戦時戦後の社会管理」、「総括討論」の三つのセッションからなり、科研メンバーが総力を傾けて取り組んだ成果である。

ここでの貴重な討論は録音して文字に起こし、2020年2月15日に印刷・製本して小冊子（非売品）にまとめた。小冊子は本研究に関連する主な研究者や研究センターに配布し、おおむね好評を得た。

（2）また、本研究の最終的な成果報告として、研究代表者・研究分担者全員が執筆に参加する本格的な学術論文集『現地資料が語る基層社会史像 20世紀半ば、東アジアの戦争と戦後』（仮題）の編集・出版に向けた準備作業を進めている。現在は新型コロナウイルス感染拡大のため、作業は中断を余儀なくされているが、順調に進めば、2020年秋頃には出版できる見込みである。

（3）このほか、本研究の個別的な成果は、別に示す研究代表者・研究分担者による多彩な研究成果に反映されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計46件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 笹川裕史	4. 巻 論文集
2. 論文標題 国民の義務として兵士になるという憂鬱：1950年代半ば、義務兵役制の導入と上海の青年たち	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『歴史家の調弦』（上智大学文学部史学科編、上智大学出版）	6. 最初と最後の頁 175-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹川裕史	4. 巻 55-4
2. 論文標題 中国復員兵士たちの戦後経験：1950年代上海の事例を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『軍事史学』	6. 最初と最後の頁 23-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸田孝志	4. 巻 論文集
2. 論文標題 毛沢東伝の軌跡：蕭三作の伝記にみる毛沢東のイメージ形成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『毛沢東に関する人文科学研究』（石川禎浩編、京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター）	6. 最初と最後の頁 57-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金野純	4. 巻 論文集
2. 論文標題 表象としての革命、実体としての暴力：文化大革命の両義性をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中国が世界を動かした「1968」』（楊海英編、藤原書店）	6. 最初と最後の頁 101-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三品英憲	4. 巻 70
2. 論文標題 1947年における華北土地改革の急進化と劉少奇	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『和歌山大学教育学部紀要：人文科学』	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子肇	4. 巻 724
2. 論文標題 中華民国期の議会選挙とその政治的含意	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『歴史と地理』	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹川裕史	4. 巻 7
2. 論文標題 戦時戦後の中国社会に耳を傾ける：兵役負担者たちをめぐる「声」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 研究中国	6. 最初と最後の頁 57-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真、胡艶紅	4. 巻 72
2. 論文標題 台湾海峡、馬祖列島の近現代史と島民の生活誌：日中戦争時期から冷戦時期までを中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 15-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真	4. 巻 論文集
2. 論文標題 地域防衛と結衆の原理	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中国農村社会の歴史的展開』（内山雅生編、御茶の水書房）	6. 最初と最後の頁 229-247
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸田孝志	4. 巻 77-4
2. 論文標題 毛沢東の物語の成立と展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 137-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三品英憲	4. 巻 69
2. 論文標題 1940年代後半における中国共産党各級組織の華北農村社会認識について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要：人文科学	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金野純	4. 巻 673
2. 論文標題 中国型社会統制システムの進化と影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水羽信男	4. 巻 論文集
2. 論文標題 中国社会と選挙	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『憲政から見た現代中国』（中村元哉編、東京大学出版会）	6. 最初と最後の頁 145-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 泉谷陽子	4. 巻 論文集
2. 論文標題 『反細菌戦』と愛国衛生運動：ハルピン・黒竜江省を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『満州の戦後：継承・再生・新生の地域史』（梅村卓ほか編、勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 228-244
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹川裕史	4. 巻 -
2. 論文標題 兵役負担と都市社会－戦後内戦期の上海、徴兵制導入の衝撃	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 53-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹川裕史	4. 巻 -
2. 論文標題 中国戦時秩序の生成をめぐる視角と射程	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真	4. 巻 -
2. 論文標題 キリスト教の革新運動と教会の政治化－1950年代初頭の福建省の事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 307-342
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真	4. 巻 -
2. 論文標題 1940年代四川省の地方民意機関と秘密結社	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 四川大学歴史文化学院編『第一届中国社会史論壇会議論文集』	6. 最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子肇	4. 巻 -
2. 論文標題 組織される徴税－1950年代初期、上海の共産党と商工業者	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 209-239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子肇	4. 巻 -
2. 論文標題 戦後中国の税政と工商同業公会－上海の貨物税制度を素材に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日中終戦と戦後アジアへの展望』（慶応義塾大学出版会）	6. 最初と最後の頁 121-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸田孝志	4. 巻 -
2. 論文標題 民間信仰と「革命の伝説」－祈雨、変天、神水・神薬を巡る建国初期中国の民衆と権力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 269-305
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸田孝志	4. 巻 296号
2. 論文標題 戦後国共内戦期、中国共産党根拠地の大衆動員と社会	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『史学研究』	6. 最初と最後の頁 16-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金野純	4. 巻 -
2. 論文標題 戦争、謠言、社会－建国初期中国におけるプロパガンダ・ネットワークの拡大	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 241-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金野純	4. 巻 48
2. 論文標題 文化大革命における政治と法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中国21』	6. 最初と最後の頁 51-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金野純	4. 巻 32
2. 論文標題 文化大革命と暴力－研究動向と今後の理論的展望	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『中国：社会と文化』	6. 最初と最後の頁 14-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三品英憲	4. 巻 -
2. 論文標題 華北農村社会と基層幹部－戦後内戦期の土地改革運動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 85-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三品英憲	4. 巻 2
2. 論文標題 国家統合と地域社会	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『第4次 現代歴史学の成果と課題』（續文堂出版）	6. 最初と最後の頁 194-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水羽信男	4. 巻 -
2. 論文標題 中国知識人の「社会像」－1930～40年代の王造時・章乃器・費孝通を素材として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 121-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田康博	4. 巻 -
2. 論文標題 台湾における中国国民党の社会調査－外来の独裁政権は現地社会をどう解釈したのか？	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 177-207
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 一ノ瀬俊也	4. 巻 -
2. 論文標題 日本陸軍の中国認識－大本営陸軍部・北支那方面軍作製の戦訓マニュアルをめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 21-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 一ノ瀬俊也	4. 巻 296号
2. 論文標題 民衆に航空戦のあり方を教える権力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『史学研究』	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岡裕之	4. 巻 -
2. 論文標題 戦時下日本における農村人口論争－日中戦争～アジア・太平洋戦争期	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『戦時秩序に巣喰う「声」』（創土社）	6. 最初と最後の頁 151-175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 16件）

1. 発表者名 笹川裕史
2. 発表標題 中国復員兵士たちの戦後体験：上海の事例を中心に
3. 学会等名 日国際シンポジウム「東アジアにおける戦時動員の位相：その衝撃と遺産」、早稲田大学（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本真
2. 発表標題 総体戦下の民衆宣伝、訓練、動員：以抗戦時期湖南省事例を中心
3. 学会等名 第二回抗日戦争史研究新趨向工作坊、北京市、北京大学（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本真
2. 発表標題 日中戦争期、日本の華南調査について：福建・広東を中心に
3. 学会等名 日本華南学会2019年度定例研究会、筑波大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丸田孝志
2. 発表標題 毛沢東伝記の形成軌跡：從蕭三所著毛沢東伝記看毛沢東形象的形成過程
3. 学会等名 西方経験与中日交流思想連鎖国際研討会（第3年）、台北市、中央研究院近代史研究所（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金野純
2. 発表標題 労働教養の誕生：変動期中国の政治運動と司法
3. 学会等名 国際シンポジウム「戦争、兵士、社会変容：中国と日本」、中国基層社会史研究会、上智大学（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉谷陽子
2. 発表標題 人民共和国建国前後の土地改革運動：河南省許昌専区を中心に
3. 学会等名 日中国際シンポジウム「東アジアにおける戦時動員の位相：その衝撃と遺産」、早稲田大学（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田康博
2. 発表標題 中国国民党在台湾一党独裁体制之成立
3. 学会等名 近代台湾歴史与文化、国立台湾大学文学院108学年度第一学期国際漢学碩博士専班（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹川裕史
2. 発表標題 1950年代半ば、徴兵制の再開と中国社会
3. 学会等名 中国基層社会史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本真
2. 発表標題 台湾海峡馬祖列島の近現代史と戦争
3. 学会等名 びん南文化、島、博物館国際検討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三品英憲
2. 発表標題 華北の社会結合と戦後内戦期土地改革
3. 学会等名 ワークショップ「宗族と水利から華北の「村」を再考する」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本真
2. 発表標題 近現代、馬祖列島の歴史・民俗的研究
3. 学会等名 国際ワークショップ：冷戦構造下、台湾海峡金門・馬祖島の歴史・民俗的研究、筑波大学人文社会系（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本真
2. 発表標題 1940年代四川省の地方民意機関と秘密結社
3. 学会等名 第一届中国社会史論壇、成都、四川大学（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 丸田孝志
2. 発表標題 毛沢東伝、故事の形成和展開
3. 学会等名 近代東亜知識人の国家構想學術検討会、台北、中央研究院（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 丸田孝志
2. 発表標題 毛沢東形象の形成
3. 学会等名 記念全面抗戰爆發80周年國際學術検討会、北京（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金野純
2. 発表標題 三反五反運動和労働現場
3. 学会等名 第六届中国当代史研究作坊、上海（國際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 笹川裕史（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 創土社	5. 総ページ数 350
3. 書名 戦時秩序に巣喰う「声」－日中戦争・国共内戦・朝鮮戦争と中国社会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

なし。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 真 (YAMAMOTO Shin) (20316681)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	
研究分担者	泉谷 陽子 (IZUTANI Yoko) (20773485)	フェリス学院大学・国際交流学部・准教授 (32711)	
研究分担者	水羽 信男 (MIZUHA Nobuo) (50229712)	広島大学・総合科学研究科・教授 (15401)	
研究分担者	松田 康博 (MATSUDA Yasuhiro) (50511482)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	三品 英憲 (MISHINA Hidenori) (60511300)	和歌山大学・教育学部・教授 (14701)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金子 肇 (KANEKO Hajime) (70194917)	広島大学・文学研究科・教授 (15401)	
研究分担者	丸田 孝志 (MARUTA Takashi) (70299288)	広島大学・総合科学研究科・教授 (15401)	
研究分担者	金野 純 (KONNO Jun) (80553982)	学習院女子大学・国際文化交流学部・准教授 (32699)	